

日本賢人会議所

第4号

総会および理事会

次の通り、総会および理事会が開催されました。

平成29年5月12日第8回理事会「平成29年度事業報告案及び収支決算報告案の承認」

6月6日第3回定時総会「平成28年度事業報告及び平成28年度決算報告書の承認、理事の選任」

6月6日第8回理事会(臨時)「総会における理事選任を受けた、会長、副会長、理事長、副理事長などの選定」

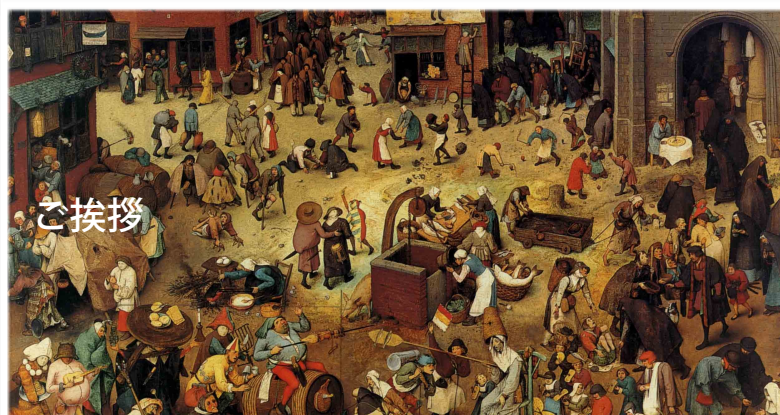
平成30年3月26日第9回理事会「平成30年度事業計画及び収支予算案の承認」

5月12日第10回理事会「平成30年度事業報告案及び収支決算報告案の承認」

正副会長会議

理事会、総会への対応、規定類や組織の整備、活動の企画や運営などに関連して、「正副会長会議」(正副会長、正副理事長、監事、事務局参与)をほぼ毎月開催しています。

なお昨年度は、平成29年4月18日、5月22日、6月6日、7月31日、9月15日、10月26日、11月13日、12月11日、平成30年1月19日、2月15日、3月9日の11回開催されました。



ご挨拶

会長 橋本久美子

街を行き交う人々も半袖姿が目立ち、夏が近いことを感じる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか。久しぶりとなる会報4号をお届けいたします。これまでの超少子高齢化社会に関する提言活動に続き、健康長寿や未病対策などについて本格的な検討が始まりました。私達の心と体の健康とともに医療や介護の社会システムのあり方など、身近な問題を考えてまいります。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに太平洋の若い世代をお招きするチャリティー活動も、楽しみながら続けてまいります。そのほかにも日本賢人会議所の楽しく意義ある活動について、ご意見やアイデアをお気軽にお寄せください。これから梅雨や本格的に暑い日々が到来いたします。皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

超高齢化社会の到来と賢人会議所の誕生 —その背景と歴史—

理事長 小早川明徳

私が高齢者の雇用事業を最初に手がけたのは、昭和54年(1979年)8月の暑い盛りであった。当日の様子を掲載した新聞は、「白髪まじり求職の列」、「不況の風が見にします」、「中小企業は「即戦力」期



事務局会議

事業および諸活動の運営管理のため、事務局を構成するボランティアメンバー（千代田行麿副理事長（事務局長）、重村正彦副理事長 芳賀敏行副理事長 窪田武監事、古澤昌弘理事（事務局参与）、芝井輝彦理事（事務局参与）、小林正博理事（事務局参与））の7名により、通年にわたり毎月2回程度開催しています。また併せて、資料の作成や発送など種々の事務作業を行なっています。事務局活動への皆様の参加・協力を歓迎いたします。

日本賢人会議所役員

6月12日の第4回定時総会で理事が選任され、それに続く第11回臨時理事会で会長以下任期2年の新役員が決定されます。なお、田林巖樹理事、平野通郎理事、福永慶隆理事及び窪田武監事は今回非改選となっており、任期1年を残します。

田町サロン

会員同士の情報交換や親睦、さらに当会の活動を活発で意義あるものとするための意見交換の場として月に一度開催しています。新年祝賀会の1月とお盆時期を除き年間10回にわたり開催していますが、より多くの会員に気軽に参加いただくことが課題です。（会場：日本賢人会議所事務局）

日本賢人会議所連絡先

〒108-0023 東京都港区芝浦2-14-13加瀬ビル161:6階
TEL: 03-6809-4950
FAX: 03-6809-4951
E-mail: info@nipponkenjin.com
HP: <https://www.nipponkenjin.com/>
FB: <https://www.facebook.com/smart.senior.council/>

待”、“求人61深刻な顔110”とある。概ね一再就職のチャンス広げる一と好評のスタートだった。看板は、「中高齢者集団選考会」。

それ以来、“高齢社会ビジネスフォーラム”を催し、“高齢者能力登録制度”を提唱、“重役ドラフト”と野球選手の選考をなぞった求人キャッチコピーを打ち出しては官庁や大手企業から「天下り大歓迎」と経営幹部を迎えるなど、中小企業の経営力を高めようと 様々なアイデアを打ち出して中高齢者の雇用市場の開拓を続けていったのであった。

そして、ついに、平成8年、労働省・福岡県の要請を受けて「福岡県高齢者能力活用センター」を設立。高齢社会に向けての具体的事業の第一歩を踏み出した。それから22年、現在、年間約9,000名の高齢者を社員として採用し派遣するまでに成長した。

高齢社会における「健全な社会の実現」の重要な課題は、高齢者自身の“経済的自立”にある。国としての財政事情が厳しさを増す昨今にあって、福祉や年金では、十分な生活の質を確保することはできず、定年後を“余生”として社会にお返しを求めてきた時代は過ぎ去り、高齢者自身が“高齢社会担う”ことを求められる時代となった。

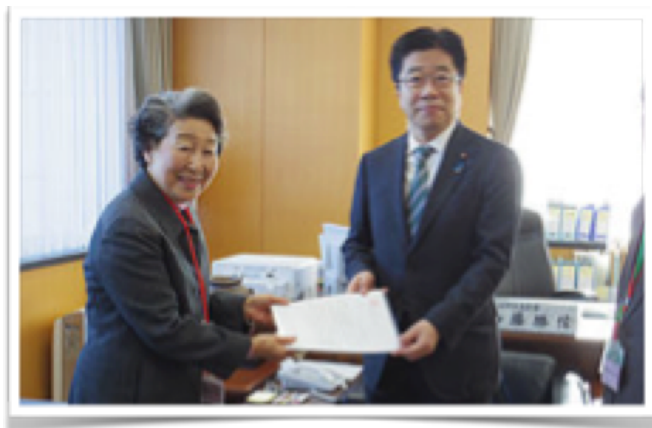
そういう時代背景から、「社会に支えられる存在」としての高齢者は、その意識の変革を厳しく求められ、「再び社会を支える担い手」として時代が求める“新世代”になったのである。ここに「賢人会議所」の誕生と事業の背景があった。

日本賢人会議所では、現在「健全な日本社会の実現」に向けての責務を果たすため、日本の文化の真髄と言われる日本神話「古事記」公演の支援、少子化社会を克服すべく「多子化対策」の提言、健康年齢の伸長を可能にする「未病研究」、「南太平洋諸島の子供達の東京オリンピックへの招待」など、各プロジェクトに取り組むと共に、会員向けには縄文文化の探訪、歴史資産の視察、古事記の天語り、アンチエイジング講座、多子化と「子宝率」、長寿食の健康管理などの講演会や視察、舞台公演・音楽会への招待など多彩な関連事業の展開でみなさまへの還元を図っている。

時代が求めている活動であり、さらに多くのシニアの参加に期待したい。



主な活動



加藤勝信一億総活躍担当大臣への提言提出（平成28年12月16日）

少子化対策を担当する加藤勝信一億総活躍担当大臣に橋本会長より、日本賢人会議所が2年がかりで取り纏めた「多子化健全社会構築に向けての提言」をお渡ししました。また、本提言の更なる進化のために本提言に基づき内閣府の子ども・子育て本部少子化担当部署が関係各省と調整し、その結果を踏まえて内閣府内で意見交換を行いました。

豊島区長に「多子化健全社会構築に向けての提言」を説明し、意見交換（平成29年4月12日）

日本創生会議から東京23区で唯一2040年までの「消滅可能性都市」と予想された豊島区の高野之夫区長、水島正彦副区長に対して説明し、少子化への取り組み、魅力ある街づくりについて意見交換をしました。高野区長のイニシアチブでピンチをチャンスに変える地道な努力「発信力のある街づくり」「文化都市宣言」「女性に優しい街づくり戦略」等が実って、統計的にもイメージ的にも着実に好転の兆しが見えているようです。翌月には月曜セミナーに豊島区制作経営部長をお招きし「国際アート・カルチャー都市へ向けて～豊島区の挑戦～」と題して講演いただきました。豊島区などとの連携について、引き続きフォローしてまいります。



秩父の森観察ツアー（平成29年5月15日）

国土の7割が森で覆われる日本は世界有数の森林大国ですが、輸入材に頼ってきたことで、わが国の国産材は活用されず、森は荒廃し、水源涵養や土壌保全に支障を来たすばかりか、下流域や海の水産資源にまで悪影響が及んでいます。地域の工務店が国産材を使い易くする流通システムづくりや林業関連産業との連携に取り組んでいる当会理事の伊佐裕氏の協力により、埼玉県秩父市における林業再生、更に地域再生にもつながる事業の見学ツアーが実現しました。秩父の新しい林業関連事業としてカエデからメープルシロップなどを生み出す秩父樹液生産協同組合、また、秩父で江戸時代から林業を営み、現在はなめこの生産を中心に事業展開している角仲林業などから、森とその資源がもたらす様々な可能性と地域振興につながる取組みについて学びました。（荒川の源流に位置する三峰神社にて）



第3回総会イベント：橋本久美子会長特別講演「母として、妻として、人として」（平成29年6月6日）

橋本会長は、以前から日本介助犬協会会長、国際なぎなた連盟会長、日本ラテンアメリカ婦人協会会長などトップとして社会と真摯に関わりながら、大学ではテニス部主将として関東学生選手権に優勝するスポーツウーマンでもあり、日頃からなぎなたの稽古とゴルフに熱心に取り組むアクティブ・シニアの模範です。5人のお子様を育て、ご自身の病気とも戦いながら、周囲を明るく癒してくださる第82代、83代総理大臣のファーストレディにこれまでの人生と想いを語って頂きました。（日露武道交流で安倍昭恵総理夫人とのなぎなた演武）

主な活動（続き）

**Super神話 ドラマチック古事記 第2回東京公演（平成29年9月2日）日本賢人会議所も後援**

平成28年に続き坂本和彦理事が音楽監督・指揮を担当し、市川（柴田）美保子理事が出演する市川森一原作「Super神話音楽劇ドラマチック古事記」第2回東京公演が新国立劇場オペラハウスで開催されました。西島数博さん、真矢ミキさん、東儀秀樹さん、宝田明さん、秋川雅史さんなどが出演し、前回に引き続き大変高い評価を得ました。当会は、日本の文化伝統を学ぶ活動の一環として、会員が鑑賞すると共に、後援団体の一つとなりました。

**新年祝賀会（平成29年1月9日および平成30年1月19日）青山オーバルビル**

2017年の新年祝賀会は、会員でもある東儀九十九さんとお嬢様の雅美さんの新春を祝う雅楽と舞に醸し出される幽玄で雅な世界に、集まった50名の会員が魅了されました。東儀秀樹さんの曲も演奏され、古来から宮廷で育まれ、国家の荘厳をなすために発展した日本の正統な音楽の力と奥深さを感じる素晴らしい機会となりました。

2018年最初の活動は、作曲・編曲も手掛けるシンガー・ソング・ピアニスト篠崎仁美さんをお招きしてユーモアたっぷりのコンサートとなりました。さらに、賀詞交換と懇親の宴が明るい雰囲気の中で開催されました。

**太平洋の子供たちを2020年東京五輪に招くチャリティープロジェクト**

我が国と歴史的にも地理的にも関係が深い太平洋の島々の未来を担う若い世代を2年後の東京五輪に招いて、日本とはもちろん、世界の国々をつなげる機会を提供するチャリティープロジェクトです。栗山昌子副会長を中心に第2回チャリティーゴルフ（平成29年11月9日）を千葉県市原市のブリック&ウッドクラブにおいて開催いたしました。

また当会理事でもある川口希史子ワールドプロジェクト音楽協会理事長が主催する第26回キシコ国際交流音楽会（平成30年1月31日）のチケット収入の一部を一昨年、昨年に引き続き寄贈頂きました。



月曜セミナー

社会の動きや健康問題、文化伝統などを学ぶ定例セミナーは原則として毎月第3月曜に開催し、これまでに31回を数えます。

平成27年（2015年）

- ・ 第1回「安倍政権はどこへ向かう～権力の深層」政治ジャーナリスト・泉宏氏
- ・ 第2回「卵子老化と少子化対策」出産ジャーナリスト・河合蘭氏
- ・ 第3回「移民定住による多子化問題」移民政策研究所所・長坂中英徳氏
- ・ 第4回「少子化歯止めの秘策を考える」産経新聞論説委員・河合雅司氏
- ・ 第5回「太平洋の島々をもっと知ろう」ジョン・フリッツ・駐日ミクロネシア連邦特命全権大使
- ・ 第6回「未病とは」福生吉裕・博慈会老人病研究所長
- ・ 第7回「ふるさと納税が日本再生・地方再建のカギ」NPO法人長崎の風事務局代表・増田泰之氏
- ・ 第8回「Enjoyエクササイズで健幸華齢」筑波大学大学院・田中喜代次教授
- ・ 第9回「古事記の世界」昭和音楽大学國武忠彦名誉教授、舞踏家・西島数博氏ほか
- ・ 第10回「古事記朗読やまとかたり」大小田さくら子氏「御製奉唱の会」代表・斎藤博子氏

平成28年（2016年）

- ・ 第11回「わたしの仕事、わたしの活動、わたしの人生」メイクアップアーティスト カオリ・ナラ・ターナー氏
- ・ 第12回「夢ありき」NPO法人「ハローバークレー」代表・茂森政氏、茂森和子氏
- ・ 第13回「災害対策は義理と人情で」相馬市長・立谷秀清氏
- ・ 第14回「少子化という静かなる有事」産経新聞社論説委員・河合雅司氏
- ・ 第15回「セカンドライフの楽しみ方」元毎日新聞常務・中島健一郎氏
- ・ 第16回「古事記が語り継ぐ上代日本語の霊力」元主婦の友社編集長・武蔵野大学講師・原山建郎氏
- ・ 第17回「わが国の留学生30万人計画と留学生支援」(株)学生情報センター代表取締役社長・西尾謙氏
- ・ 第18回「万葉集に詠われたやまとごころ」元主婦の友編集長・武蔵野大学講師・原山建郎氏
- ・ 第19回「東京オリンピック・パラリンピックへの提言」NPO法人STAND代表理事・伊藤数子氏
- ・ 第20回「少子高齢化に歯止めを～結婚相手紹介サービスの出来ること」(株)ツヴァイ社長・縣厚伸氏



「少子高齢化に歯止めを～結婚相手紹介サービスの出来ること」(株)ツヴァイ社長・縣厚伸氏

月曜セミナー（続き）

平成29年（2017年）

- ・第21回「多子化健全社会構築ワークショップ」多子化提言タスク
- ・第22回「どうなる安倍政権・・・森友問題、小池都政など」政治ジャーナリスト・泉宏氏
- ・第23回「シニアライフと栄養学：50兆円に向かう医療費削減のためにも長寿食スーパー日本食を！」日本食育協会理事・長野美根医学博士（当会理事）
- ・第24回「国際アート・カルチャー都市へ向けてー豊島区の挑戦」城山佳胤・豊島区政策経営部長
- ・第25回「世界に通用する人づくりー脳教育と自己革新」Uホープ㈱代表取締役・阿部忠氏
- ・第26回「体質と未病～ぴんぴんころりの体づくり」金沢大学大学院・鈴木信孝教授
- ・第27回「未病そして健康マスター検定」日本健康生活推進協会・大谷泰夫理事長
- ・第28回「科学技術が進歩した長寿時代のいのちーひとりの人間として晩年を考える」ホームケアエクスパート協会・酒井忠昭理事長
- ・第29回「森を育てる家づくり」伊佐ホームズ㈱・伊佐裕社長

平成30年（2018年）

- ・第30回「日本のこれからを考えるー小児期、成人期、高齢期の大規模疫学研究と国際比較の結果から」富山大学医学部・関根道和教授
- ・第31回「働き方改革について」自由民主党厚生労働部会長・橋本岳衆議院議員



シニアライフと栄養学：50兆円に向かう医療費削減のためにも長寿食スーパー日本食を！」日本食育協会理事・長野美根医学博士



「日本のこれからを考えるー小児期、成人期、高齢期の大規模疫学研究と国際比較の結果から」富山大学医学部・関根道和教授

会員紹介

今回は三人の会員をご紹介します。今後、順次多くの会員をご紹介します。

「七十にして再び志す」

IT企業経営
漢人邦夫さん



お仕事は何ですか？

27年働いた(株)オリンパスを辞めて、12年前に起こしたカラーコードのIT企業を経営しています。画像処理技術で世界主要国のパテントもあり、マイクロソフトやHPなど大手が撤退した現在は、世界中でも唯一の会社と言っていいと思います。(微笑)ただ、会社の主要業務は若い世代に引き継いでいきます。

ビジネス以外にもいろいろ取り組んでいると伺っていますが

あと1年ほどで70歳を迎えるのですが、同期生を見ると仕事人生で燃え尽きてしまったのか、覇気がなく、毎日を惰性で生きているように思うことがあります。平均寿命と健康寿命の間には10年ほどのギャップがありますが、この差を縮めるためには体と精神の両方を健康に保つ事が大切です。そのために70歳から本格的に取り組むための5つの活動を始めました。

その5つを教えてください

具体的にはまず、会員でもある阿部忠さんの「アジア留学生看護師・介護福祉士育成会」の活動をお手伝いすること。先日も県や市にお願いする3,000万円規模の助成金用企画書を作成しました。次に、

JAZZ IN FUCHU実行委員会の営業担当リーダーとして、音楽関係会社などオフィシャル・スポンサー10社に50万円ずつ出してもらうよう走り回っています。三番目は「男の料理教室」開催ですが、実はこれはシニアの能力や技術を集めるための手段で、料理教室を通じて集まった人によって自然体で次の意義ある活動を生み出したいと考えています。四番目は長年続けている活動で、仲間6人と月に四回、特別養護老人施設やデイサービス施設を訪問して、1時間ほどギター演奏と歌を披露しています。最後に、シニアの退職後に充実した毎日を送れるように、シニア同士が助け合える仕組みを検討中です。買い物支援や送迎サービス、家事代行など従来から女性中心に既存の組織・サービスはありますが、功成り名を遂げたシニア男性がより身近に共助できる仕組みがあったら良いと思うのです。

「5K+1で、心も体も元気に輝け」

管理栄養士
青山寿江さん



お仕事は何ですか？

管理栄養士として食文化を専門学校で教えていますが、健康運動指導士や中医薬膳指導員などの経験を生かして、薬局を拠点とした未病・予防の健康支援活動を全国で行い、健康寿命延伸や介護予防を目的とした体感型の健康・食育セミナーなどで講師を務めています。

あなたが講師を務める未病や食育、介護予防セミナーの特色は？

人生100年時代となり、生き生き、ワクワクした感性を持ち続け、その人らしく人生を謳歌するために健康は一生の貴重な財産です。健康と言う財産形成のコツは、「作る、増やす（育てる）、守る」。だから、知って学び、体験して感じる事が重要なので、「健康のK、教育のK、介護のK、環境のK、経済のK、そして感動のK」5K+1を提唱しています。心も体も元気に輝け！ですね。

それから、わたしたちの伝統と革新の融合された素晴らしい和食文化を伝承することは大切だと思っています。なぜならば、残念ながら和食文化が各家庭の中で次第に薄らいでいく現実があります。健康の基本はまず食事なので、日頃の食生活を見直し、ライフスタイルに合わせてアドバイスをすることで「これならやれる！」と共感し、家庭でできる和食を分かりやすく提案しています

お仕事以外にもとても忙しそうですが

自分自身が「生き生き、ワクワク」と輝いていたので、興味があつたことはアクティブにチャレンジしています。人から見たら忙しく見えるかもしれませんが全て好きなことばかりしているので楽しいですよ。（笑）

この会を含めていろいろな勉強会にも属していることが刺激になり「生き生き、ワクワク」の感動に繋がっています。

家庭菜園でのオーガニック・鎌倉野菜づくり、大型犬の散歩、サンパでのパフォーマンス、そして息抜きの大型バイクでツーリングなど、私自身の可能性と成長を信じ、楽しい感動が味わえる活動の場がまだまだ広がりそうです。

私のチャレンジ精神が人に勇気と希望を与え、人のお役に立てたら幸せですね。（笑）

「農業への取組：青森の農家と」

会社経営
瀬尾純一郎

お仕事は何ですか？

日本銀行を辞めて、住宅ローンの会社を運営していますが、今はその系列でコンサルティング・調査の会社を新たに作り、そちらに主に関わっています。

ビジネス以外にも取り組んでいると伺っていますが

日銀の青森支店長時代に地元の農家と知り合い、それ以来の交流の中で様々なアグリビジネスに取り組んできました。最初は、オーガニックのリンゴの販売に取り組みました。「奇跡のリンゴ」で有名な木村秋則さんの農法によるものです。このほか、メロン、にんにく、黒にんにく、トマトなども販売してきました。その関連で農業廃棄物の処理、バイオマス発電、循環型の農業ビジネスを目指して来ましたが、10年以上やってきましたが、今のところ上手くいっていません。（笑）

では、そろそろ撤退ですか？

いやいや、人の生活の基本は食、だから食は健康と美のためにも重要で幅広く、食を通じた人と人の結びつきも大切です。この事業も青森の農家との出会いから。だから農業を諦めることはありません。食育は必要だし、子どもを田圃で遊ばせることの教育効果は大きい。他方で、地域の活性化のために里山の復活が重要です。農業の人手不足は深刻で高齢化も進んでいます。いろいろ難しいことは分かっていますが、現在やっている会社のコンサルティングや調査のノウハウも使って、お金も少しかけてチャレンジしていきます。（微笑）



有楽町交通会館での農産物販売

日本賢人会議所連絡先

〒108-0023 東京都港区芝浦2-14-13加瀬ビル161:6 階
TEL : 03-6809-4950
FAX : 03-6809-4951
E-mail : info@nipponkenjin.com
HP : <https://www.nipponkenjin.com/>
FB : <https://www.facebook.com/smart.senior.council/>